

年月日
通信大臣

通甲三四

明治二十八年十月三十日

内閣總理大臣 **桂野**

法制局長官

外務大臣

望

大藏大臣

田

海軍大臣

五

文部大臣

望

逓信大臣

大

内務大臣

若

陸軍大臣

麿

司法大臣

心

農商務大臣

若

田議長

別紙逓信大臣請議函湯鐵道敷設假免
狀下付ノ件ヲ審査スルニ不都合ノ虞
無之ニ付請議ノ通閣議決定相成可然

下認ハ

法制局

指令案

函湯鐵道敷設假免狀下付ノ件ハ請
議ノ通

明治六年十一月五日

近
年
各
省
鐵
道
敷
設
假
免
狀
下
付
ノ
件
ハ
請
議
ノ
通

参照

私設鐵道條例 明治十年令
勅令第百一十號

- 第一條 旅客及荷物運輸營業ノ目的ヲ以テ鐵道ヲ布設セントスル者ハ發起人十人以上信託シ鐵道會社創立預書ニ起業目論見書ヲ添ヘ本社ヲ設置セントスル地方廳ヲ經由シ政府ニ差出スルニ(二項略)
- 第二條 起業目論見書ニ左ノ事項ヲ記載スル
- 第一 社名及本社所在地
- 第二 線路ノ兩端及其經過スル地名但畧圖ヲ添

フ(一)

大
正
十
年
一
月
五
日

第三 資本金ノ總額及總株式數並一株ノ金額

第四 鐵道施設ノ費用及運輸營業上ノ收支暨先

第五 發起人ノ住所及發起人各自ノ引受クニ株式數

但發起人總數ノ引受クニ株式數ハ總株式數十分之二

以上之レ

第三條 政府ニ於テ第一章ノ願書及目論見書ヲ直向

ニ送附スル時ニ附屬ナルト認ムルトキハ及次狀ヲ下付シ

本社ヲ設ケントスル地ノ地方廳ニ在リテ發起人ヲシテ鐵路

圖面工事市地事務工費豫算書及会社ノ定款ヲ附屬

シ之ヲ提出スルコト

既設ノ鐵道ニ妨害ヲ生ズル虞アリ又ハ其他方ノ狀況
鐵道ノ施設ヲ專ラスト認ムルトキハ願書ヲ却下スル

商法

第一百零七條 (一項改)

發起人ノ目論見書及及定款ヲ作り各自之署名

名捺シ

定款ニ本法ノ規定ニ依リテ附スルコトヲ得

第一百零八條 目論見書ニ記載スル可キ事項左ノ如シ

第一 株式会社ノ旨

第二 会社ノ目的

第三 会社ノ社名及之營業所

第四 資本金總額、株式ノ總數及之1株ノ金額

第五 資本使用ノ計算

第六 發起人ノ姓名、住所及之發起人各自ノ引渡

ル種類

第七 有之時期ヲ定メタルキハ其時期

第八 資本總額、發起人ハ会社ヲ設立ス可キ地ノ地方長

官ヲ經由シテ目録見書及之及金額ヲ主務官ニ宛

出シ發起ノ認可ヲ請フモノヲ要ス

第九 資本總額、創業者總額ノ後發起人ハ地方長

官ヲ經由シテ主務官ニ会社設立ノ免許ヲ請フ其

申請書ニハ左ノ事項ヲ掲グ可シ

第一 目録見書及之金額

第二 株式ノ引渡

第三 發起ノ認可證

法例第一〇四九号
第一〇四九号
不詳

鐵第一〇四九号

函湯鐵道敷設假免狀下付ノ件

函湯鐵道株式會社發起人ヨリ該會

社ヲ發起シ北海道渡島國函館區

ヨリ同國龜田郡下湯川村ニ至ル

鐵道敷設ヲ出願セリ依テ願意ヲ

聞届ケテ假免狀下付ノ日ヨリ起算

シ満十二個月以内ニ私設鐵道條

例第六條ノ圖面書類及商法第百

六十六條ノ書類ヲ差出シ免許狀

ノ下付ヲ申請セサルトキハ此假免

狀ハ無効トスルノ條件ヲ附シ假免

狀ヲ下付セントスルニ別紙參考書

類相添、此段閣議ヲ請フ

明治二十八年十月廿五日

通信大臣白根專



内閣總理大臣侯爵伊藤博文殿

第 號 假免状案

假免状

函湯鐵道株式會社發起人

田代坦之

外九名

右出願ニ係ル函湯鐵道株式會社ノ發起ヲ認可シ北海道渡島國函館區ヨリ同國龜田郡下湯川村ニ至ル鐵道敷設、為メ同線路ヲ實地測量スルコトヲ許可ス

但此假免状下付、日ヨリ起莫シ滿十二个月以内ニ私設鐵道條例第

三條ノ書類苗面及商法第百六十
 六條ノ書類ヲ差出シ免許状ノ下
 付ヲ申請セサルトキハ此假免状ニ無
 効タルハシ

年 月 日

逋信大臣

七
 逋甲三五

明治二十八年十一月二日

内閣總理大臣 甘文

法制局長官

外務大臣 望

大蔵大臣

海軍大臣

文部大臣

逋信大臣

内務大臣 吉

陸軍大臣

司法大臣

農商務大臣

逋議士

別紙逋信大臣請議吉備鐵道株式會社發
 起並鐵道敷設ノ件ヲ審査スルニ不都合
 ノ廉無之ニ付請議ノ逋閣議決定相成可
 然ト認ム

法列局